

圓谷昂史¹・鈴木明彦²：北海道天売島における暖流系岩礁性巻貝イシダタミの出現

Takafumi ENYA¹ and Akihiko SUZUKI² : Appearance of warm-water rocky-shore gastropod, *Monodonta labio confusa*, on the coast of Teuri Island, Hokkaido

はじめに イシダタミ *Monodonta labio confusa* は、北海道南部以南に広く分布するニシキウズガイ科の小型の巻貝である (吉良 1959; 佐々木 2000). 北海道南部地域では潮間帯の岩礁上で比較的好く見られる種であり、北海道蘭越町や小樽市周辺でも確認されている (伊藤 1987; 山崎・齋藤 2013). 今回、2013年9月に、北部北海道の日本海側にある天売島・焼尻島で打ち上げ貝類の調査を行ったところ、天売島沿岸で初めてイシダタミを採集したので、その概要を報告する.

調査地点 本研究を行った天売島は、周囲約12km、面積約5.50km²の島で、幅約3.5kmの武蔵水道を挟んで焼尻島と対座している (図1). この島の地質は、ほぼ新第三系の火山噴出岩類から構成されており、周囲には多くの岩礁が点在している (秦 1960). また、西部沿岸は、高さ100mあまりの海蝕崖が形成されており、歩行不可能な地点が多い. 一方、東部の海岸に向かい、5段の段丘面を形成しながら緩やかに傾斜している. 打ち上げ貝類の調査は、歩行可能な東部沿岸のゴメ岬海岸、弁天海岸、前浜海岸の3地点で行った (図2). このうちイシダタミを採集したのは弁天海岸であり、海岸は小円礫～大円礫で構成され、周囲にはテトラポッド等の人工構造物が存在した.

結果 今回、採集したイシダタミは3個体である (図3). 丸みを帯びた螺塔には、横長で平板状の顆粒が畳のように敷き詰められ、本種に特徴的な黄・白・紺・赤等の色彩豊かな斑点も良く確認できる. 採集した各個体の殻長のサイズから、成貝であると判断される (吉良 1959). また、いずれの個体も欠損部分がほぼ無く保存状態が非常に良いことから、死後間もなく打ち上げられたものと推察される. これを裏付ける事実として、周囲の潮間帯岩礁上でイシダタミの生貝を複数確認している (図4). さらに、随伴した打ち上げ貝類は、エ

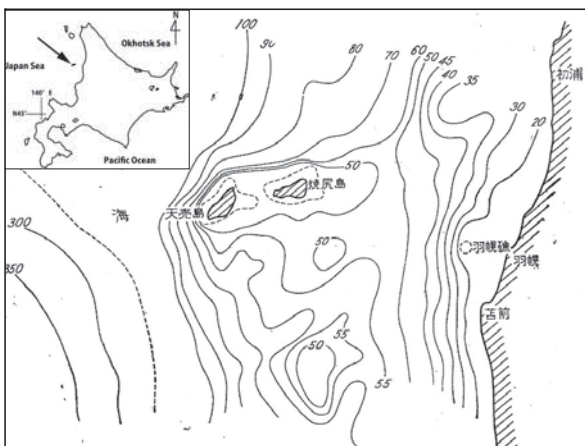


図1 天売・焼尻島の位置 (秦 1960 引用改編)

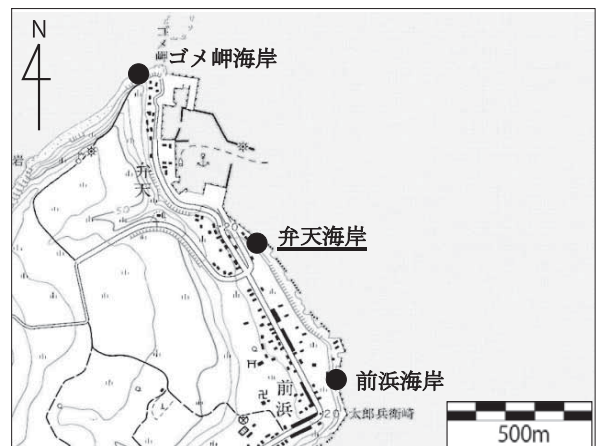


図2 天売島東部における調査地点

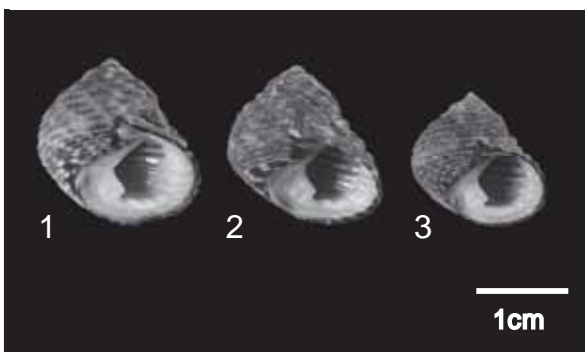


図3 採集したイシダタミ
殻長サイズ(1 : 21.1mm, 2 : 20.5mm, 3 : 17.4mm)



図4 岩礁で発見したイシダタミの生貝

ゾアワビ *Haliotis (Nordotis) discus hannai*, コシダカガンガラ *Omphalius rusticus*, ムラサキイガイ *Mytilus galloprovincialis* などの岩礁性種が卓越した。

考察 近年、北海道日本海側では、浅海域に生息する貝類の生態や分布に関する研究が盛んに行われており、北方海域へと生息範囲を更新する暖流系底生貝類が相次いで報告されている（鈴木・志賀 2007；鈴木・福井 2011；山崎・齋藤 2013）。

また、北海道最北の離島である礼文島でも暖流系巻貝レイシガイの最北漂着記録が報告されており（鈴木・圓谷 2013）、北方の離島における貝類の生息分布についても明らかになりつつある。

今回、天売島で初めて採集されたインダタミは、従来北海道南部以南に生息範囲を持つ暖流系貝類であり、打ち上げ貝類及び複数の生貝を確認したことから、本種が天売島の岩礁に生息していることが明らかとなった。このような暖流系貝類の北方進出の一因には、冬季海面水温の高温傾向や対馬暖流の勢力拡大との関連が示唆されており（鈴木 2010）、天売島周辺の海面水温も同様に、特に冬季において平均値より高い傾向が近年継続している（気象庁 HP）。本報告のインダタミは、暖流系種が日本海北部の海面水温上昇に適応し、その分布範囲をより北方へと拡大した一例として注目される。

謝辞：本研究を進めるにあたり、有益なご助言をいただいた北海道教育大学都郷義寛名誉教授に厚く御礼申し上げます。また、本研究は、平成24年度漂着物学会基金研究助成金及び日本学術振興会科学研究費（若手（B）26740061）を使用した。

引用文献

- 秦光男 1960. 5万分の1地質図幅・説明書「焼尻島」. 24pp. 工業技術院地質調査所
伊藤潔 1987. 無脊椎動物. 小樽市博物館（編）. 小樽海岸の自然（海産）調査報告書. pp.19-115. 小樽市博物館, 小樽
吉良哲明 1959. 原色日本貝類図鑑. 240pp. 保育社, 大阪
気象庁 HP 2014 (<http://www.data.kishou.go.jp/kaiyou/shindan/index.html>)
佐々木猛智 2000. ニシキウズガイ科. 奥谷喬司（編著）. 日本近海産貝類図鑑. pp.54-82. 東海大学出版会, 東京
鈴木明彦 2010. 北海道厚田沿岸への暖流系岩礁性巻貝レイシガイの漂着. 漂着物学会誌, 8: 25
鈴木明彦・志賀健司 2007. 北海道におけるトリガイの緯度分布と地質記録. ちりぼたん, 38:3-4.
鈴木明彦・圓谷昂史 2013. 北海道礼文島への暖流系岩礁性巻貝レイシガイの漂着. 漂着物学会誌, 11: 29-30
鈴木明彦・福井淳一 2011. 北海道松前半島におけるメダカラガイの出現. ちりぼたん, 41:41-47.
山崎友資・齋藤寛 2013. 北海道西岸の蘭越町潮間帯に生息する貝類. ちりぼたん, 43:35-43
(Received Aug. 30, 2014; accepted Oct. 17, 2014)

¹ 〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2 北海道開拓記念館

¹ Historical Museum of Hokkaido, 53-2 Konopporo, Atsubetsu-cho, Atsubetsu-ku, Sapporo 004-0006, Japan

² 〒002-8502 札幌市北区あいの里5-3-1 北海道教育大学札幌校地学研究室

² Department of Earth Science, Sapporo Campus, Hokkaido University of Education, 5-3-1 Ainosato, Kita-ku, Sapporo 002-8502, Japan